

和語サ変動詞の用法と格表示

石塚 直子

キーワード：NV 型複合名詞、和語サ変動詞、漢語サ変動詞、品詞認定

要 旨

「名詞＋和語動詞連用形」型複合名詞には「する」「をする、がする、にする」等がつくことができる。理論的な観点からは、それぞれの形式がどういった環境に分布しているのか、一通り説明がなされてはいるものの、使用実態に即した記述は必ずしも充実しているとは言えない。本稿では、「名詞＋和語動詞連用形」型複合名詞に「する」がつくことができる和語サ変動詞を取り上げる。具体的には、3 節で NV 型複合名詞に「する」「をする、がする、にする」がつくかどうかについて「新聞」コーパスを利用し、調査を行う。その後、4 節で調査結果を概観し、和語サ変動詞の持つ特徴や漢語サ変動詞との振る舞いの違い（例えば、「NV 型複合名詞＋格する」の中では NV 型複合名詞に「をする」がつくものが多いこと、「をする」「がする」ともにつく語が一定数ある（漢語サ変動詞には両方つく語はほぼ皆無）等）について触れる。続いて、漢語サ変動詞は「をする」をとる際に条件が生じるが、和語サ変動詞がその条件に適用できず、さらには実例があることを 5 節で示す。最後 6 節で本稿の主張をまとめる。

1. はじめに

本稿が取り上げるのは、「格上げ」「値下がり」などのように「名詞＋和語動詞連用形」型をとる複合名詞^{*1}（以下、NV 型複合名詞と呼ぶ）に「する」と「格動詞（を、が、に）＋する」（以下、「格する」と呼ぶ）をつけることができるかどうかという現象についてである（(1)(2)）。

*1 本稿が対象とする NV 型複合名詞は後項が和語動詞連用形の場合に限る。よって、例えば「商品開発」のような漢語 NV 型複合名詞は取り扱わない。

- (1) a. 手続き, 子育て, 値下がり, 格上げ
 b. 手続きする, 子育てする, 値下がりする, 格上げする
 c. 手続きを^{*}する, 子育てを^{*}する, ??^{*2}値下がり^{*}を^{*}する, ??格上げ^{*}を^{*}する
- (2) a. 血止め, 胸騒ぎ, 面立ち, 湯上り
 b. ??血止め^{*}する, ??胸騒ぎ^{*}する, ??面立ち^{*}する, ??湯上り^{*}する
 c. 血止め^{*}を^{*}する, 胸騒ぎ^{*}が^{*}する, ??面立ち^{*}を^{*}する, ??湯上り^{*}を^{*}する

(1)の NV 型複合名詞は(1b)のように直接「する」をつけて、NV 型複合サ変動詞 (以下、和語サ変動詞) になる。一方、(2)の NV 型複合名詞は、以下に示す調査の中で、(2b)のように直接「する」をつける例がみられなかったものである。本稿では、特に(1)の和語サ変動詞を取り上げる。具体的には 3 節で NV 型複合名詞に「する」「格する」がつくかどうかについて「新聞」コーパスを利用し、調査を行う。その後、4 節で調査結果を概観し、和語サ変動詞の持つ特徴や漢語サ変動詞との振る舞いの違い (例えば、「NV 型複合名詞+格する」の中では NV 型複合名詞に「を^{*}する」がつくものが多いこと、「を^{*}する」「が^{*}する」ともにつく語が一定数ある (漢語サ変動詞には両方つく語はほぼ皆無) 等) について触れる。続いて、漢語サ変動詞は「を^{*}する」をとる際に条件が生じるが、和語サ変動詞はその条件に適用できず、さらには実例があることを 5 節で示す。最後 6 節で本稿の主張をまとめる。

2. 先行研究と本稿の位置づけ

本稿に関連する先行研究には 2 つの流れがある。1 つは後項が和語動詞連用形である複合名詞を対象とした NV 型複合名詞、および和語サ変動詞についての研究 (影山(1993) (1999) 等)、もう 1 つは漢語サ変動詞を対象とした「を^{*}する」がつく際の条件についての研究 (田野村(1988) 等) である。本節では、前者にあたる影山(1993) (1999) の先行研究に触れ、後者の田野村(1988) 等については 5 節で触れる。

*2 (1)~(6)において、「??」は今回行ったコーパス調査では用例がみられなかった(用例 0)ものを示すこととする。今回の調査では用例がみられなかったが、現実として使用されている可能性も考慮し、ここでは「??」とした。

影山(1993)(1999)は、NV型複合名詞のうち、(1)と(2)の「血止め、胸騒ぎ」を「デキゴト名詞」、(2)の「面立ち、湯上り」を「モノ名詞」と分類している^{*3}。しかし、「デキゴト名詞」の中で実際にNV型複合名詞に「する」がつき「格する」がつかないものの用例を概観すると、どちらがつくのかという判断だけできれいに二分できるものではないことが分かる。詳細は後述するが、「する」がつく和語サ変動詞では「格する」がつくものが大半であるからである。本稿は、影山のいう「デキゴト名詞」に「する」や「格する」がつくかどうかに着目し、表1のような分類をもとに調査を行う。本稿ではその中でも特に、「する・格する兼用型」(3)「する専用型」(4)について取り上げる。

【表1】NV型複合名詞の「する」「格する」用法と分類

本稿における現象の名付け	NV型複合名詞+する	NV型複合名詞+格する	用例
する・格する兼用型	○	○	(3)
する専用型	○	×	(4)
格する専用型	×	○	(5)
する・格する不用型	×	×	(6)

- (3) 手続き(手続きする／手続きをする), 子育て(子育てする／子育てをする), 等
- (4) 値下がり(値下がりする／??値下がりをする), 格上げ(格上げする／??格上げをする) 等
- (5) 血止め(??血止めする／血止めをする), 胸騒ぎ(??胸騒ぎする／胸騒ぎがする) 等
- (6) 面立ち(??面立ちする／??面立ちをする), 湯上がり(??湯上がりする／??湯上りをする) 等

影山等の先行研究はそれぞれの型にあてはまるNV型複合名詞の例を挙げてはいるものの、それらがどのような割合であるのか、またどのような語があてはまるの

*3 表1でいうと、点線(____)より上が影山(1993)(1999)のいう「デキゴト名詞」、下が「モノ名詞」である。

かについて等、個々の NV 型複合名詞がどの型になるのかについては触れていない。また、NV 型複合動詞に「する」「格する」のどちらがつくのかという判断は、多分に研究者による内省で行われており、「する」「格する」どちらが優勢であるのかについては明確ではない。本稿では、コーパス調査により、「する」「格する」がどれだけつき、兼用型がどれだけあるのか、どれだけ裏付けられるのか等について調査を行う。

3. 調査の対象と手法

話し言葉では、本来 NV 型複合名詞が「格する」をつける「する・格する兼用型」であっても、格助詞を脱落させ、直接「する」をつけた「する専用型」にみえる場合がある*4。本調査では、格助詞の脱落が少ないと思われ、かつ大量のデータをとることができる⁵と判断し、「新聞」(『毎日新聞』1999 年から 2007 年までの 9 年間分)をコーパスとして用いた*5。

調査対象とする NV 型複合名詞は『明鏡国語辞典』*6(2003)の見出し語に立項されている NV 型複合名詞 1845 語である。この 1845 語のうち、まずは NV 型複合名詞に「する」がつくかどうか、ついで「格する」がつくかどうか調査を行った*7。この時、①「(対象とする NV 型複合名詞)をしっかり行う」等、形態的な理由か

*4 ポーズやアクセントを置いている可能性もあるが、その場合ポーズやアクセントだと見分けることは難しい。

*5 本調査の前に、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」でもサンプリング調査を実施した。しかし、BCCWJ では得られる用例数が 10 例以下のものが多く、NV 型複合名詞間であり差がみられなかったため、今回「新聞」に限定し、調査することとなった。他のコーパスの使用については今後考えることにしたい。

*6 和語の NV 型複合名詞は無限につくりだすことも可能だが、国語辞典に収録される語というものはおおよその国語辞典においても「一般的に使用される、あるいは理解できる語」を対象としていると考えられることから、今回はひとまず『明鏡国語辞典』を代表例として取り扱った。

*7 具体的には、「新聞」のコーパスデータを用い、「No editor2」(テキストエディター)で grep 検索を行った。grep 検索では、検索文字列を「(調査対象の NV 型複合名詞) [さ・せ]」と正規表現を用いた。

らサ変でないものを拾ってしまった用例, ②ヴォイス変化をともなう用例(受け身・使役・タイ形・テアル形等), ③見出しや会話文に該当するもの^{*8}, 等は不適当な例と見なし, 手作業で排除した。

4. 調査結果と考察

4.1. 「する」のつくNV型複合名詞の用法と語数

3節の調査より、『明鏡国語辞典』から抜き出した1845語のNV型複合名詞のうち、「する」のつくものの用例数と語数の結果は、表2のようになった。

NV型複合名詞に直接「する」がつく和語サ変動詞は425語(約23%), 一方、NV型複合名詞に直接「する」がつかないNV型複合名詞は1420語(約77%)であった。したがって、NV型複合名詞の「する専用型」「する・格する兼用型」は、全体の約4分の1にあたる。

【表2】「する」のつくNV型複合名詞の用例数と語数

「NV型複合名詞+ する」の用例数	複合名詞 (語数)	複合名詞 (%)
1000例以上	2語	0.1%
500~999例	13語	0.7%
100~499例	36語	2.0%
30~99例	58語	3.1%
1~29例	316語	17.1%
(小計)	425語	23.0%
0(用例なし)	1420語	77.0%
合計	1845語	100.0%

4.2. 和語サ変動詞における「する専用型」「する・格する兼用型」の用法の割合

表2のNV型複合名詞に直接「する」がつく和語サ変動詞425語のうち、直接「する」をとる用例が30以上ある109語のNV型複合名詞を対象に、「格する」「を
する」「がする」「にする」がつく用例があるかどうか調査を行った^{*9}。

*8 ただし、会話文中において省略されやすいという環境にも関わらず、「格する」がついているものについては、強い反例になると考えたため、用例に含めた。

*9 今回、「する・にする兼用型」については、調査を行ったが取り上げて考察は行わない。

その結果、109語のうち、「格する」の用例がない和語サ変動詞の「する専用型」は15語(約14%)あり(表3)^{*10}、「する・格する兼用型」は94語(約86%)であった(表4)。

したがって、和語サ変動詞における「する」「格する」の用法についての割合を、影山(1993)(1999)でははっきりと示されていなかったが、調査結果より「する・格する兼用型」が「する専用型」よりも大多数であることが分かる。

【表3】^{*11}「する専用型」の15語

「する」がつく NV型複合名詞	NVする	格する	『明鏡国語辞典』の
			品詞認定
1 値下がり	504	0	名詞・サ変(自動詞)
2 格上げ	346	0	名詞・サ変(他動詞)
3 目減り	327	0	名詞・サ変(自動詞)
4 弟子入り	143	0	名詞・サ変(自動詞)
5 気落ち	129	0	名詞・サ変(自動詞)
6 梅雨明け	88	0	名詞・サ変(自動詞)
7 振舞げ	81	0	名詞・サ変(自動詞)
8 陸揚げ	67	0	名詞・サ変(他動詞)
9 先細り	64	0	名詞・サ変(自動詞)
10 腰折れ	58	0	名詞
11 間延び	54	0	名詞・サ変(自動詞)
12 積溜り(積こり)	51	0	名詞・サ変(自動詞)
13 携取り	51	0	名詞・サ変(他動詞)
14 底入れ	39	0	名詞・サ変(自動詞)
15 作付け	35	0	名詞・サ変(他動詞)

*10 『明鏡国語辞典』でNV型複合名詞の品詞認定が「名詞・サ変」でないものは、「腰折れ」のみであった。「腰折れ」は、多くの国語辞典(具体的には『岩波国語辞典第9版』『旺文社国語辞典第10版』『新選国語辞典第9版』『新明解国語辞典第7版』『明鏡国語辞典第2版』『日本国語大辞典第2版』等計6冊参照)において、「和歌などにおける用語」と意味が記述され、品詞認定が「名詞」とされている。

しかし、今回の調査で「腰折れする」という用例はすべて経済関連で使用されており((7)(8))、従来国語辞典に記載されていた「和歌などにおける用語」としての意味記述とは異なる新しい用法であった。

(7) また、長期的な国際通貨の安定を図る上で、今の日本の景気回復が腰折れしないことは大切である。
(『毎日新聞』1999年7月29日朝刊)

(8) 景気が腰折れしないようスピーディーな取り組みを願う。

(『毎日新聞』2001年2月7日朝刊)

*11 表3以降、表の最も左側に振った番号は、便宜上振ったものである。

【表4】「する・格する兼用型」で「格する」の合計用例数が30以上の語

	「する」がつく NV型複合名詞	NVする	NVをする	NVがする	NVIにする	格する合計	『明鏡国語辞典』の 品類認定
1	手続き	95	644	0	4	648	名詞
2	子育て	150	261	0	0	281	名詞・サ変(自動詞)
3	手助け	505	273	0	3	276	名詞・サ変(他動詞)
4	仲間入り	92	161	0	0	161	名詞・サ変(自動詞)
5	恩返し	38	158	0	0	158	名詞・サ変(自動詞)
6	橋渡し	57	144	0	0	144	名詞
7	手当て	207	141	0	0	141	名詞
8	先送り	2298	16	0	98	114	名詞・サ変(他動詞)
9	目隠し	50	110	0	0	110	名詞・サ変(自動詞)
10	棚上げ	400	0	0	102	102	名詞・サ変(他動詞)
11	登壇	44	86	0	0	88	名詞・サ変(自動詞)
12	口利度	69	75	0	0	75	名詞
13	味付け	170	54	0	11	65	名詞
14	警備	112	66	0	0	66	名詞・サ変(自動詞)
15	届組み	61	55	0	0	55	名詞
16	挨拶	2020	49	0	0	49	名詞・サ変(他動詞)
17	値上げ	658	46	0	0	46	名詞・サ変(他動詞)
18	振返し	45	45	0	0	45	名詞
19	気配り	47	42	0	0	42	名詞・サ変(自動詞)
20	手抜き	57	42	0	0	42	名詞・サ変(自動詞)
21	味見	38	39	0	0	39	名詞・サ変(他動詞)
22	勘違い	697	37	0	0	37	名詞・サ変(自動詞)
23	穴埋め	545	34	0	1	35	名詞・サ変(他動詞)
24	門前払い	67	7	0	28	35	名詞
25	足跡	220	30	0	0	30	名詞・サ変(自動詞)

4.3. 和語サ変動詞と漢語サ変動詞における「する・がする兼用型」の異なる振る舞い

表4をみると、「する・をする兼用型」が圧倒的に多い一方で、「する・がする兼用型」をとるものは全く現れないことが分かる。

しかし、「格する」の合計用例が少ないもの（「格する」合計用例数が29以下）を見ていくと、表5のように「する・がする兼用型」の語も、今回の調査では425語中13語あることが確認できる（(9)(10)）。

【表5】「する・がする兼用型」で「する」「がする」の用例数がそれぞれ1以上ある語

	「する」がつく NV型複合名詞	NVする	NVをする	NVがする	NVIにする	格する合計	『明鏡国語辞典』の 品類認定
1	雨降り	24	0	13	0	13	名詞
2	日持ち	41	0	12	0	12	名詞
3	息切れ	185	1	10	0	11	名詞・サ変(自動詞)
4	地震	1	0	9	0	9	名詞
5	屋冷え	9	0	8	0	8	名詞・サ変(自動詞)
6	気乗り	16	0	7	0	7	名詞・サ変(自動詞)
7	地味	1	0	5	0	5	名詞
8	気遣い	118	0	3	0	3	名詞・サ変(自動詞)
9	日移り	50	0	2	0	2	名詞・サ変(自動詞)
10	胸焼け	3	0	2	0	2	名詞
11	心算わり	13	2	1	0	3	名詞・サ変(自動詞)
12	武者震い(武者振るい)	6	0	1	0	1	名詞・サ変(自動詞)
13	潰瘍	6	0	1	0	1	名詞・サ変(自動詞)

- (9) a. 3年間休業した宿は屋根から雨漏りし、布団や畳、冷蔵庫が使い物にならなくなっていた。 (『毎日新聞』2003年8月28日夕刊)
 b. 家が老朽化して雨漏りがするようになったが、苦しい生活の中では修繕もできない。 (『毎日新聞』2004年9月22日朝刊)
- (10) a. 高知県野市町西佐古で1ヘクタールの畑を借り、ハウスで小松菜や春菊など日持ちしない軟弱野菜を大量栽培している。 (『毎日新聞』2001年7月19日朝刊)
 b. コロンビアの花は、色が鮮やかなうえに日持ちがするのだという。 (『毎日新聞』2007年11月14日夕刊)

和語サ変動詞に「する・がする兼用型」が13語みられたことは注目すべき点である。今回行った調査と同じコーパスを用いて、調査を行ってみると、漢語サ変動詞の「する・がする兼用型」は「予感する・予感がする」^{*12}の1語しか見出せなかった((11))。

- (11) a. 将来の増税を予感する国民は民需の柱である消費を手控える。 (『毎日新聞』2000年9月12日朝刊)
 b. その瞬間、アフガンもイラクも激震に見舞われる予感がした。 (『毎日新聞』2002年9月11日朝刊)

この和語サ変動詞と漢語サ変動詞の「する・がする兼用型」における振る舞いの違いは興味深いが、今回は現象の提示までとし、その違いが生じる理由についての検討は今後の課題としたい。

4.4. 和語サ変動詞にみられる「する・をする・がする兼用型」

また、表5には「息切れ、心変わり」の2語ではあるが、(12)(13)のように「する」「をする」「がする」のすべてに用例を持つものが見られる。このようなものは、漢語サ変動詞の調査では1例も見られず、和語サ変動詞と漢語サ変動詞との違いと

*12 「予感する」は160例、「予感がする」は227例みられた。

して挙げられる。

- (12) a. シーズンの滑り出しは好調で「今年こそ」と期待しても中盤で息切れし、
終わってみれば B クラスの繰り返し。

(『毎日新聞』1999年9月22日夕刊)

- b. しょっちゅう息切れをするので酸素ボンベが手放せない。

(『毎日新聞』2001年7月23日朝刊)

- c. 以前はできた激しい動きができなかったり、息切れがする。

(『毎日新聞』2002年10月14日朝刊)

- (13) a. 心変わりした兄嫁への弟の片恋慕という終幕まで同じだ。

(『毎日新聞』2004年12月15日朝刊)

- b. クレメンスは引退する予定だが、万が一心変わりをした場合には、自由に交渉できる。

(『毎日新聞』2003年11月8日朝刊)

- c. だが、「心変わりがしたら反対しないよ」と田中監督。

(『毎日新聞』2005年12月12日夕刊)

以上、4.3 と 4.4 では、調査結果の中から、漢語サ変動詞と比較した際の和語サ変動詞の特徴を挙げた。表 4 を見れば分かるように、「する・格する兼用型」の多数派は「する・ををする兼用型」であり、この点は和語サ変動詞も漢語サ変動詞と同様である。しかし、細部の、特に用例総数の少ないものを見ていくと、「する・がする兼用型」の用例数が比較的多くみられること (4.2) や、「する・ををする・がする兼用型」がみられること (4.3) のような興味深い差異も見出すことが可能である。

和語サ変動詞と漢語サ変動詞の振る舞いの違いをより深く検討するために、今後は和語サ変動詞が「する」「格する」がつく際の割合を、漢語サ変動詞が「する」「格する」がつく際の割合と比較する等、詳細な量的比較を行う必要があると思われる。

4.5. 調査結果と国語辞典の品詞認定とのずれ

2 節でも述べたが、NV 型複合名詞に「する」「格する」のどちらがつくのかという判断は、多く研究者の内省判断により行われてきた。このような判断を内省で行

ってきたという問題は、国語辞典の品詞認定にも該当する。なぜならば、国語辞典における NV 型複合名詞の品詞認定は、多く研究者や編集者の内省判断により決められているからである。コーパス調査により、国語辞典の品詞認定がどれだけ裏付けられているか、調査結果と国語辞典の品詞認定にずれが生じていないかどうか、前掲した表で確認を行うと次のようなことが分かる。

「する専用型」の表 3^{*13} に比べ、「する・格する兼用型」の表 4 において、国語辞典の品詞認定にゆれが目立つ。具体的には、調査結果から「する・格する兼用型」に該当する語であり「する」の用例数が相当数あるのにも関わらず、品詞認定が「名詞」のものが 8 語 (32%) みられた。このように調査結果では NV 型複合名詞に直接「する」をとる用例が確認できるにも関わらず、「名詞・サ変」の表示を持たないケースについては、どのような根拠をもとに研究者や編集者が「サ変」の表示を外し「名詞」としているのか気になるところである。

なお、今回の調査結果 (表 4) を活かせば、例えば「NV 型複合名詞+ををする」の用例数の「格する」の用例数に対する比率が一定数より低いものを「サ変」から外す、というような、客観性の高い品詞認定も可能になるのではないかと思われる。

5. 「ををする」をとる条件

本節では、今回の調査により判明したことについて、もう 1 つ取り上げる。これは、2 節で述べた、田野村 (1988) 等の記述に関係する。

4 節において、「がする」に関わる振る舞い等を中心に、和語サ変動詞と漢語サ変動詞との間に、一部異なる点のあることが確認できた。本節では、サ変動詞が「ををする」をとる際の条件についても、和語サ変動詞と漢語サ変動詞との間に相違点のあることを指摘する。

まずは、田野村 (1988) 等の先行研究の指摘する「ををする」をとる条件を確認す

*13 表 3 に関しては、すでに「注釈 10」で触れたので、ここでは省略する。

る。漢語サ変動詞に関する先行研究では、(14)のような条件が指摘されてきた*14。

(14) 漢語サ変動詞が「をする」をとる条件

A. 意図(意志)的*15 な事柄・性質を表していること(田野村(1988), 平尾(1995))
主語が意図的に行う動作である … ○漢語サ変動詞+「をする」(田野村
(1988))

「シヨウ, シタイ」と共起できる … ○漢語サ変動詞+「をする」(平尾(1995))

B. 動的な継続性(非瞬間性)を表していること(田野村(1988))

「～し始める/終わる」と共起できる … ○漢語サ変動詞+「をする」

「～し始める/終わる」と共起できない … ×漢語サ変動詞+「をする」

田野村(1988)が指摘する条件((14))は、条件A, Bを並立的に並べており、「をする」をとるためには、「条件Aかつ条件Bを満たす」のか「条件Aまたは条件Bを満たせばよい」のかははっきりとは示していない。したがって、条件A, Bとの関係性は明確ではないといえる。以下に示す調査から、条件A, Bの関係性についても考察を行う。

次に、田野村(1988)が指摘する条件が、和語サ変動詞にも該当するか調査を行った。ここでは、表4で示した25語のNV型複合名詞に限らず、「する」がつく用例数が30以下のNV型複合名詞で「をする」をとるものも対象に含んだ。

調査方法としては、田野村(1988)の「をする」をとる条件に従い、非意図的と思われるものや変化をあらわすものを内省判断した。その結果、表6の11語が該当

*14 今回提示した条件以外に、影山(1993)(1999)は、漢語サ変動詞が「非対格」か「非能格」かによって「をする」をとる・とらないという条件を指摘している。紙幅の関係上、今回は条件として扱わず、検討を行わなかった。今後改めて漢語サ変動詞・和語サ変動詞で比較、検討を行いたい。

*15 田野村(1988)では、「単純サ変動詞文型が自然な表現として成立するには、「する」(＝「行う」)と言うに足る動作・行為を表していることが必要である。」(p.71)と述べている。田野村(1988)の「単純サ変動詞文型」とは、本研究でいう「NV型複合名詞+「格する」」である。

した。次に、これらの 11 語の NV 型複合名詞について、今回 3 節で行った調査と同様のコーパスを用いて、「シヨウ/シタイ」(条件 A) がつくかどうか調査を行った。ついで、「～し始める/終わる」(条件 B) も同様の調査を行った。その調査結果が、表 6^{*16}、(16)(17)である。

【表 6】「する」が 30 以上つく NV 型複合名詞で「をする」をとる条件 (A・B) の反例

「する」がつく NV型複合名詞	NVする	NVをす	NVがする	『明鏡国語辞典』 の品詞認定	「をする」をとる 条件 A		「をする」をとる 条件 B	
					意図(意志)的な事柄	用例数	動的な連続性	用例数
1 勘違い	697	34	0	名詞・サ変(自動詞)	勘違いしよう 勘違いしたい	0 0	勘違い始める 勘違い終わる	0 0
2 人見知り	36	14	0	名詞・サ変(自動詞)	人見知りしよう 人見知りしたい	0 0	人見知り始める 人見知り終わる	0 0
3 日焼け	368	7	0	名詞・サ変(自動詞)	日焼けしよう 日焼けしたい	0 0	日焼け始める 日焼け終わる	0 0
4 気兼ね	63	5	0	名詞・サ変(自動詞)	気兼ねしよう 気兼ねしたい	0 0	気兼ね始める 気兼ね終わる	0 0
5 身震い	55	5	7	名詞・サ変(自動詞)	身震いしよう 身震いしたい	0 0	身震い始める 身震い終わる	0 0
6 力負け	111	4	0	名詞・サ変(自動詞)	力負けしよう 力負けしたい	0 0	力負け始める 力負け終わる	0 0
7 鉢合わせ	68	2	0	名詞・サ変(自動詞)	鉢合わせしよう 鉢合わせしたい	0 0	鉢合わせ始める 鉢合わせ終わる	0 0
8 様変わり	565	1	0	名詞・サ変(自動詞)	様変わりしよう 様変わりしたい	4 0	様変わり始める 様変わり終わる	3 0
9 逆戻り	321	1	0	名詞・サ変(自動詞)	逆戻りしよう 逆戻りしたい	2 0	逆戻り始める 逆戻り終わる	1 0
10 息切れ	185	1	10	名詞・サ変(自動詞)	息切れしよう 息切れしたい	0 0	息切れ始める 息切れ終わる	1 0
11 梅雨入り	103	1	0	名詞	梅雨入りしよう 梅雨入りしたい	0 0	梅雨入り始める 梅雨入り終わる	0 0

(16) 一瞬、息子が大げがをしたものと私は勘違いをしたのである。

(『毎日新聞』2007年11月13日朝刊)

*16 表 6 より、「様変わり」で、(14)の条件 A に該当する用例が見られた。しかし、(15)のように、すべて「推量」の用法(「～しようとしている」)であり、「意図(意志)的である」という条件は満たしていなかった。よって、「様変わり」は、条件 A に該当する用例ではない(=用例 0)といえる。

(15) 新首相官邸のスタートとともに、メディアと首相の関係が大きく様変わりしようとしている。

(『毎日新聞』2002年3月19日朝刊)

したがって、本節で行った調査(表 4 で示した 25 語から非意図的なものを抜き出す)は、ほぼ妥当な操作であったと思われる。

(17) 諒助ちゃんは人見知りをしない明るい子供だった。

(『毎日新聞』2006年11月14日朝刊)

表6より、「ををする」をとる条件Aに該当する用例は「逆戻り」の1語のみであり((18))、「逆戻り」のみが条件Aを満たしている(=「シヨウ/シタイ」と共起する)ことが確認できる。

(18) これは決して田舎暮らしに逆戻りしようということではない。

(『毎日新聞』2004年3月12日朝刊)

しかし、他の10語は条件Aを満たしていない(=「シヨウ/シタイ」と共起できない)非意図(非意志)的であるにも関わらず、「ををする」をとる用例がみられた。このことが11語中10語(約90%)にみられることから、和語サ変動詞には多く「ををする」をとる条件Aの例外があることが確認できる。このような条件Aの例外について、田野村(1988)は漢語サ変動詞では明示していない。

さらに、「ををする」をとる条件Bに該当する用例は「様変わり、逆戻り、息切れ」の3語が見られた((19)~(21))。したがって、「様変わり、逆戻り、息切れ」は、条件Bを満たしているといえる。

(19) 関西の主要な服飾専門学校の、卒業作品コンテストが様変わりし始めた。

(『毎日新聞』2000年3月23日朝刊)

(20) 今、初めてCD化された彼の1950~70年代の録音(グラモフォン)を前にして、自分のなかの時間が逆戻りし始める。

(『毎日新聞』2005年7月6日夕刊)

(21) 元気を装いながら、被災者が息切れし始めていた時期だったといえる。

(『毎日新聞』2000年11月18日夕刊)

一方、残りの8語は、条件Bを満たしていない(=「~し始める/終わる」と共起しない)にも関わらず、「ををする」の用例がある。このことにより、条件Bを満たしている場合でも満たしていない場合でも、和語サ変動詞は「ををする」をとることが可能であることが確認できる。

なお、田野村(1988)は、「をする」をとる条件について(22)と同義な表現として(23)を挙げている。

(22) 部屋を掃除する。 (田野村(1988) (1))

(23) 部屋の掃除をする。 (田野村(1988) (2))

このことについて、今回調査対象とした 11 語の NV 型複合名詞で確認すると、(22) (23) の「掃除」は他動詞であるのに対し、11 語は『明鏡国語辞典』の品詞認定は「梅雨入り」を除き、すべて自動詞なので問題がないように思われる(表 6)。しかし、3 節で行った調査と同様のコーパスを用いて「～を NV 型複合名詞＋する」で調査を行ったところ、「勘違い、気兼ね、力負け、逆戻り」の 4 語に用例がみられた。さらに、その後「～の NV 型複合名詞＋をする」の用例があるか、同様のコーパスで調査を行ったところ、「～を勘違いする」のみ用例が見つかった。この「勘違い」の用例((24))は、(24)' のように言い換えることが可能であり、かつ言い換えても意味が変わらない。

(24) まさか、何かの勘違いをしているのだろうと聞いた方は思います。

(『毎日新聞』2001 年 1 月 24 日朝刊)

(24)' まさか、何かを勘違いしているのだろうと聞いた方は思います。

((24)の言い換え)

「勘違い」は自動詞と品詞認定されているが、他動詞用法もあると考えられる。さらに、「勘違い」は意図的な動作とは考えにくいので、和語サ変動詞には、田野村(1988)が指摘する(22) (23)の例にあてはまらないものがみられたといえる。これは、漢語サ変動詞とは異なり、和語サ変動詞は「～の NV 型複合名詞＋をする」と「～を NV 型複合名詞＋する」との対応が必ずしも一致していないことを示すものである。

以上、漢語サ変動詞と和語サ変動詞が「「をする」をとる条件」において生じる相違点を確認した。

今回調査対象とした表 6 の 11 語のうち、条件 A・B ともに満たし「をする」をとっているのは、「逆戻り」の 1 語のみであった。その他 10 語は、条件 A・B ともに満たさない、あるいは条件 B のみ満たしているのにも関わらず「をする」をと

っており、条件の例外に当たる。

田野村(1988)では、漢語サ変動詞において、表6や(16)(17)のような「[を]をする」をとる条件」の例外は、1語も挙げられていない。しかし、今回和語サ変動詞を対象にした調査により、和語サ変動詞に条件を当てはめてみると、条件を満たしていないにもかかわらず、和語サ変動詞は「を[を]をする」をとるという条件の例外にあたる語があることが確認できた。

すなわち、和語サ変動詞の「[を]をする」をとる条件」の例外には、条件A・Bをともに満たさなくとも「を[を]をする」をとることができるもの、条件Aを満たしていても「を[を]をする」をとることができるもの、条件Bを満たさなくとも「を[を]をする」をとることができるものがあることがそれぞれ確認できた。したがって、和語サ変動詞は必ずしも漢語サ変動詞の「[を]をする」をとる条件」に一致しないことが分かる。

また、田野村(1988)の提示する条件A、Bのうち、どちらの条件がより優勢であるのかについては、両条件の関係性が複雑であり、どちらが優勢であるのか明言しにくく、本稿では明らかにすることはできなかった。田野村(1988)の指摘する「[を]をする」をとる条件」以外にも、和語サ変動詞には「を[を]をする」をとる際に何か別の条件がないか、今回対象とした語以外の和語サ変動詞に「[を]をする」をとる条件」を満たすものはないか、等について再検討していきたい。

6. まとめ

本稿は3つの要点にまとめられる ((ア)~(ウ))。

- (ア) NV 型複合名詞に直接「[を]をする」をつけることができる和語サ変動詞において、「[を]をする専用型」と「[を]をする・格[を]をする兼用型」とでは、「[を]をする・格[を]をする兼用型」の方が圧倒的に多い。
- (イ) 「[を]をする・格[を]をする兼用型」は、和語サ変動詞と漢語サ変動詞とでは振る舞いが異なる。
 - ① 和語サ変動詞の「[を]をする・格[を]にする兼用型」には「雨漏り、底冷え」などの例があるのに対し、一方漢語サ変動詞では「予感」の1例のみであった。よって、「[を]をする・格[を]にする兼用型」は漢語よりも和語の方が比較的多く見られることが分かった。
 - ② 和語サ変動詞は「[を]をする」「[を]にする」両方ともつくことができる「息切

れ（息切れをする／息切れがする）、心変わり（心変わりをする／心変わりがする）」などがあるが、漢語サ変動詞には「をする」「がする」の両方がつくことができる例が、今回の調査結果ではみられなかった。

(ウ) 従来漢語サ変動詞研究で指摘されてきた「をする」をとる際の条件には適用できない語が、和語サ変動詞にはみられた（「勘違い、人見知り」等）。

さらに、今後の課題としては大きく2点挙げられる。

1 つは、和語サ変動詞と漢語サ変動詞の振る舞いの違いをより深く検討するために、今後は和語サ変動詞が「する」「格する」がつく際の割合を、漢語サ変動詞が「する」「格する」がつく際の割合と比較する等、詳細な量的比較を行う必要がある。

もう1つは、和語サ変動詞には「をする」をとる際の条件が適応できない語がみられたが、漢語サ変動詞にも条件に対する反例があるかどうか、漢語サ変動詞自体の再調査を行う。また、和語サ変動詞と漢語サ変動詞とで振る舞いに差がみられたが、なぜこのような差があるのか、考察を深める必要がある。

参考文献

- 石塚直子(2011)『「名詞＋和語動詞連用形＋する」型の複合サ変動詞に関する研究』筑波大学修士(言語学)学位論文
- 伊藤たかね・杉岡洋子(2002)『英語学モノグラフシリーズ 16 語の仕組みと語形成』研究社
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎(1999)『日英語対照による英語学演習シリーズ 2 形態論と意味』くろしお出版
- 田野村忠温(1988)「「部屋を掃除する」と「部屋の掃除をする」」『日本語学』7-11
- 平尾得子(1995)「VN ガスルと VN スルと VN ラスルーサ変動詞語幹と構文的制約一」『日本語類義表現の文法（上）単文編』くろしお出版

資料

北原保雄（編）（2003）『明鏡国語辞典 携帯版』大修館書店

北原保雄（編）（2010）『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店

金田一京助・佐伯梅友・大石初太郎・野村雅昭（編）（2011）『新選国語辞典 第九版<2色刷>』小学館

西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫（編）（2011）『岩波国語辞典 第七版新版』岩波書店

日本国語大辞典第二版編集委員会小学館国語辞典編集部（2003）『日本国語大辞典 第二版』小学館

松村明・山口明穂・和田利政（編）（2011）『旺文社国語辞典 第十版』旺文社

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井原正博・笹原宏之（2012）『新明解国語辞典 第七版』三省堂

コーパスデータ

『CD-毎日新聞』日外アソシエーツ（1999年～2007年度版）

〔付記〕 本稿は、筑波大学日本語日本文学会平成 24 年度大会の内容に修正を加えたものである。発表の席上コメントを下された方々に感謝申し上げます。

いしつか なおこ／人文社会科学研究所
（2012 年 10 月 30 日 受理）